

校訓再考

学校長 太田 清史

校長着任後、三度目の年度を迎えました。「石の上にも三年」と申しますから、本年度を「私の学校改革」の完成年度と位置付けています。

着任直後に、真宗大谷学園理事長より各設置校の「グランドデザイン」策定の要請を受け、二〇一二年度より二〇二一年度までの十年間の「中・長期計画」を立案いたしました。「学校スローガン “To Be Human(人となる)” を基盤とする仏教教育を展開する」を当面の教育目標として、「教育に関する目標」「生徒募集・進路指導に関する目標」「学校経営に関する目標」の三分野において、具体的な数値目標を設定して、二年目を迎えました。グランドデザインは、十年間を三・四・三の三期に分けて、中間総括による修正を加えつつ、達成を目指すものです。

学校経営を支えるのは、優秀な生徒を多く確保し、そして卒業後の進路実績を向上させることに掛かっています。この二年間、私は学校のよりよい「入口」と「出口」を、生徒や保護者の皆様に対して保証することに全精力を傾注してまいりました。そしてその成果は、一年目にしてほぼ達成することが出来ました。今後も、後退することなく、生徒や保護者の皆様の満足度の高い学校づくりを行なうことを、ここにお約束いたします。

そこで今年は、じっくりと本校の教育内容を吟味する年度と位置付けて、各学年・各教科を始め、それ以外の校務分掌や部活指導など、出来るだけ各会議や授業などに陪席して、先生方と協力しつつ、適宜、問題点の抽出に基づく改革を行なってゆきたいと考えています。

いずれにしても、本校の教育の基本理念は「To Be Human(人となる)」でありますから、現時点であるべき人間教育が行なわれているかどうかの検証することに他なりません。

本校には、大正十二年に「大谷中学校」として新発足した際、第九代谷内正順^{やちしょうじゅん}校長により制定された四つの校訓があります。

真理を尊重せよ
義務を果遂せよ
相互に敬愛せよ
不断に精進せよ

これは当時の「教育勅語」を掲げる欽定憲法下において、仏教語を用いることなく本校の宗教的教育理念を謳い上げたもので、現在の校歌はこの校訓をもとに作詞されています。そこでは「よき世の人になるため」の必須の道程が、これら四つの校訓であると示されています。次号以後の機関誌『大谷』において、それ

らの吟味をしてみたいと存じます。